

**2015年3月期 第3四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A**

**Q：全体：第3四半期累計の業績が前年同期と比べ、減収増益だったが、その理由は？**

A：売上は1,632億円と前年同期に比べて9億円減少したものの、営業利益が101億円（前年同期比55億円増加）しましたのは、主要事業であるSE（半導体機器）事業において変動費率が大幅に改善したことなどによるものです。これは、コストダウンやリードタイム短縮に加え、売上構成において、SEの主力製品である枚葉式洗浄装置の高付加価値モデルが高水準だったことなどによります。

**Q：全体：第3四半期は営業利益が6.8%と収益性が良かったが、継続性はあるのか？**

A：四半期ごとに変動はあるものの、今後も継続的に高収益を目指しています。中期3カ年経営計画の初年度にあたる今期は、変動費削減活動などに加え、予兆管理（目標の損益分岐点を定め、売上や受注動向を確実に管理し、固定費と変動費を調整することにより、確実に利益を生み出す管理体制）を徹底し、収益構造改革を推し進めています。

**Q：半導体機器事業（SE）：今後の事業の見通しは？**

A：第4四半期の受注環境は、先端投資の継続により、第3四半期と同水準で推移すると予想しています。売上に関しましては、第4四半期に増加する見込みです。

**Q：印刷関連機器事業（GP）：前四半期（第2四半期）に比べ、利益率が減少した理由は？今後の見通しは？**

A：営業利益率が減少したのは、売上の減少によるものです。それとは逆に、第4四半期では、売上の増加により、営業利益も増加する見込みです。

**Q：FPD 機器事業（FT）：第3四半期の受注動向、今後の業績や受注見通しは？**

A：第3四半期の受注は、前四半期（第2四半期）に比べて72億円と大幅に回復しました。中国向けテレビ用大型パネル製造装置のみならず、スマートフォンやタブレット用中小型パネル製造装置が増加しました。第4四半期の受注は、第3四半期と同水準（若干のプラス）を見込んでいます。

**Q：第3四半期のFCF(フリーキャッシュフロー)が改善したが、その理由は？**

A：前四半期（第2四半期）に比べ、税金等調整前四半期純利益に加え、売上債権の減少、仕入債務の増加などの収入が、たな卸し資産の増加などの支出項目を上回ったことが主な理由です。

以 上

---